

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 年 月 日

事業所名：結の会

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	スペースとしては十分であるが、利用者の増加に伴いやや手狭に感じられるようになってきた。ただ、学習室・フリースペースなどと用途に応じて区分しているため、支援に問題ないように配慮できている。	どちらともいえないが16%、わからないが5%、適切であるとの評価は79%	特に小学生の学習スペースに関しては、より集中できるように、配置換えなどを行いました。その結果、児童の集中力や持続性は向上してきています。
	2	職員の適切な配置	保育士・児童指導員の配置人数には問題ないが、利用者数が多い時、より手厚く支援するには不足を感じる時もある。	適切であるとの評価は100%	より手厚く、支援できるように、常に職員の募集を行うとともに、専門性の向上を図っています。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	みんなの部屋・学習スペース・音楽を行う部屋・作業スペースなど、利用者は理解できている。	どちらともいえないが5%、適切であるとの評価は95%	学習スペースを、より簡素化することで、その他の活動スペースへの意識付けが行えるようになってきています。その様子を、未就学の子供たちも見て、意識することで、どのスペースで何をするのかをしっかりと理解できるようになってきています。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	みんなの部屋・学習スペース・音楽を行う部屋・作業スペースなど、利用者は理解できている。ただ、開業以来の汚れなどが目に付き始めたため、休業日を利用しての改装も必要と考えている。	どちらともいえないが10%、適切であるとの評価は90%築年数などの問題もあるが、もう少しきれいであればありがたい。	営業日数の経過に伴い、施設内の汚れなども目立つようになってきました。築年数を感じさせないように、物品のや備品の新調も計画しています。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	利用者の現状把握、支援の達成度などで、支援計画の見直しをしています。また、目標の達成度なども、ケース会議などを通じて毎月話し合っています。		PDCAサイクルの実施はもちろんですが、子供の変化に対応できるように、短期支援の内容の変化も法今日に応じて対応しています。その場合には再度丁寧に説明させています。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施しておりません。		今後、必要であれば実施も考えています。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	県や民間の研修には、できるだけ職員が参加できるようにしています。また、個々の児童に関するケース会議などは毎月実施して、流動的に支援方法を検討しています。		現状では、まだまだ研修時間の確保は不十分ではありますが、職員個々が自覚を持って参加したいとされる研修には時間の許す限り参加してもらうように配慮しています。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	送迎時に児童の現況を伝えるだけでなく、時に家庭での様子、支援内容の達成度などを伺っています。それを、デイに持ち帰り検討しています。	特に、交流の問題に関しては33%のわからないとのご意見、5%のいいえ、5%のどちらとも言えないの声がありました。それ以外の項目に関しては適切であるとの声を多数いただいております。この件に関しましては、フェイスブックなどのSNSを通じて配信しております。	子供の実態の調査や「何ができ、何ができないか」「どんなことに負担がかかるのか」「どのような支援のアプローチが適切か」を考えるのに児童の行動観察に時間がかかってしまうのが現状です。できるだけ、早く実態を把握する必要性は感じています。特に週1回の利用であればなおさらで、その場合支援計画の作成にご理解をいただくこともあります。今後できるだけ早く対応させていただきまします。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	児童の様子や現在の支援内容の達成度を一覧にして、職員の共通理解のもと支援体制を整えています。一日の流れの中で、個別の課題と集団活動の2本柱で取り組んで		
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	児童の様子や現在の支援内容の達成度を一覧にして、職員の共通理解のもと支援体制を整えています。特に、短期的支援に関しては、職員打ち合わせなどを通じて、一覧で		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個々の児童の特性や落ち込み分野の検討に、職員総意で分析・検討しているため、少し時間がかかってしまうのが現状。できるだけ早期に分析検討を終わらせ、より適切な支援を実施したくは感じているが、障害の程度などを常に考慮するためなかなか難しい。	計画に沿った支援に関して、5%のどちらとも言えないという意見がありました。その一方で「いろんな事にチャレンジしてくれています。」とのご意見もあります。その他、計画の作成や具体的支援の内容に関しては、概ね満足していただいています。	曜日毎に音楽活動、全体での協調性育成プログラムをメインに活動していますが、計画の立案から実施に至るまで、毎回満足のいく内容を提供できるようには配慮しています。支援プログラムは児童の日々の様子に応じて変化する場合もあります。機械的にプログラム通りいかない日が見られる事もあります。その都度、チームとして配慮を要する児童により適切な内容を考える事も結構あります。現状のプログラムを基本に臨機応変に対応していくこともありますの、その場合
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	活動そのものは、音楽的な分野・全体を通じての協調性の育成に力を置いています。その中で、それぞれの分野ごとに研修や計画立案を2カ月に1度の割で検討し、工夫を凝らしています。		
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	季節や曜日・休日など、それぞれに対応した支援計画を実施しています。マンネリ化を起さないように、活動内容や行事の精選を図るとともに、休日などはより細かく支援目標に近づけるような支援と時間を利用できるように配慮しています。		
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	活動そのものは、音楽的な分野・全体を通じての協調性の育成に力を置いています。その中で、それぞれの分野ごとに研修や計画立案を2カ月に1度の割で検討し、工夫を凝らしています。		
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	必ずしも十分ではないが(当日の児童の体調や精神状態などに左右される)、開始前の教材の精選や支援内容の確認について、ある程度の役割分担を行い、準備を行っています。		午前の支援内容の確認や役割分担にかけ時間は約30分ほどかけています。前日の振り返りなども含めてよりよい支援ができるように今後も教材の精選などに力を入れていきます。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	一日の振り返りを通じて、何ができたのか、何が十分でなかったのか、また児童にどのような変化が見られたのかを再確認することで、翌日の支援内容に配慮できるようにしています。		日々の振り返り、気づきなどを業務日誌に記録して翌日の支援・次の支援内容に結びつけてはいますが、マンネリ化にならないようその内容の分析や方向性、今後の支援内容の検討の材料になるようにより一層励んでいきます。
	10 日々の支援についての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	業務日誌の利用・記録をつけていく事で、日々の児童の様子や変化を確認しています。特に支援内容とリンクさせることで、達成度なども常に確認しながら取り組んでいます。		
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	2か月から3か月での相談支援事業所とのモニタリング期間を設けている他、実際の児童の様子なども見学を通じて確認しながらモニタリングを実施しています。場合によっては、ケース会議などを設ける事で、計画をより深めています。		相談支援事業者との連絡をより密にし、書面や口頭での情報交換だけにならないように、場合によっては、活動の実態件見学などもお願いすることもあります。

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	保育所・家庭児童相談所・相談支援事業所・医療機関・社協を始め、関連する児童に対してだけでなく、家庭の諸問題に関してもカンファレンスを必要とされる時期に行っています。その中で、よりよい支援内容を検討するだけでなく、家庭を含めた支援体制を再確認したり、情報を共有することで、よりグローバルな支援体制を見いだせるように参画しています。		カンファレンスの必要な児童だけでなく、より手厚く支援を要する場合には、できるだけ関係機関との情報連絡や共有を実施できるように今後も配慮していきます。特に家庭を始め、医療面での支援やバックアップの必要な児童に関しては積極的に、日々の活動の内容や、これまでの取り組みに関して、また日々の変化などを検討しながらこれまで以上に積極的に参画していきます。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	支援学校との情報交換、または小学校からの支援内容の見学など積極的に情報を共有する機会があります。特に支援学校との情報交換は連携を密に、家庭の問題なども含めて情報の共有化をしています。		現状での学校での取り組みなどを、より具体的にうかがうだけでなく、取り組み方法や内容を持ち帰り検討しています。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	これからの課題と考えていますが、サポートブックなどの作成を積極的に勧めています。		将来の就労に向けてのイメージを作ることは難しいですが、サポートブックなどの活用で少しずつ具体的に考えられるように、家庭への支援を勧める必要性を感じています。今後の課題として受け止めています。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	県や民間の研修には、できるだけ職員が参加できるようにしています。また、個々の児童に関してのケース会議などは毎月実施して、流動的に支援方法を検討しています。		専門性の向上に向けて、研修やその実践は重要と考えています。今後もより研修への参加ができるように職員の時間配置や機会の確保に努めます。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	地域の子供会との交流は継続中です。季節ごとの祭りや農作業が中心になっていますが、できるだけ参加できるように連携をとっています。ただ、カリキュラムの問題もあり、毎回の参加や時間的な制約があるのが現状です。	特に、交流の問題に関しては33%のわからないとのご意見、5%のいいえ、5%のどちらとも言えないの声がありました。それ以外の項目に関しては適切であるとの声を多数いただいております。この件に関しましては、フェイスブックなどのSNSを通じて配信しております。また、交流に関しましては、相手のある事でもあり、こちらからの一方的な働きかけがしづらいところでもあります。機会があれば、もう少し参加できればありがたいとは考えています。	地域の子ども会への参加は現状のまま継続を続けていきます。ただ、こちらからの働きかけは、相手のある事ですので、難しくことも事実です。現状では年に3回ほどの交流にとどまっています。できるだけ、たくさんの児童が参加できることを目指している事や回数も増やせる事ができるように要望はしてまいります。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	本事業所としての行事はありませんので、地域の子供会などに参加させていただき、地域の小学生たちと交流する機会を作っています。		